

なぜ来た 危険な原子力空母ジョージ・ワシントン

— 9・25 横須賀集会 参加報告 —

9月25日、横須賀および全国の市民・労働者の反対にもかかわらず、横須賀港にアメリカ第七艦隊の原子力空母G・ワシントンが配備されました。G・ワシントンは、イージス艦を統括し、MD（＝防衛のための盾）システムの“洋上管制塔”という重要な役割を果たすのです。

日米両政府は、G・ワシントンの横須賀配備で、MDシステムの日本での実戦配備を完了しようとしています。MD計画とはまやかashiで、これは相手国の弾道ミサイルによる攻撃能力を「無力化」する機能を持つものです。

日本国中、陸上にはPAC3（＝地上発射型迎撃ミサイル）と、海上にはSM3（＝海上発射型迎撃ミサイル）を配備しつつあります。横田基地には、BJOCC（＝日米共同統合作戦調整センター）を設置し、日米両軍の一体化が加速しています。日米両政府は、中国・ロシアへの臨戦態勢を強化することをねらって、G・ワシントンの横須賀配備を強行したのです。

中国・ロシアの政府も、核ミサイルの多弾頭化など対抗的な核軍事力強化をおしすすめています。

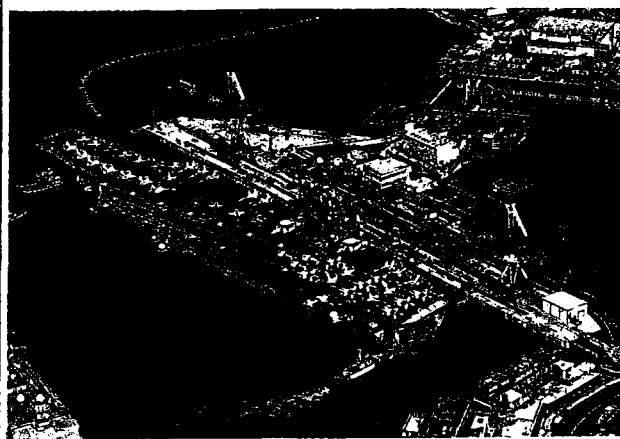
こうしたなかでのG・ワシントンの横須賀配備は、アジアにおける戦争の危機をまねくのではないかと、とても心配です。

だから私は、9月25日の横須賀での反対集会に参加しました。参加者は5000人で、7月の集会と比べて、盛

り上がりに欠けました。デモで精一杯「反対！」のシュプレヒコールを上げ、怒りをぶつけてきました。集会後それぞれの組合の「団結がんばろう！」に、多くの若者も一緒に声を上げていて、連帯ができ、うれしくなりました。

翌26日の毎日新聞にカラー刷りで、G・ワシントン全体写真が載りました。まず、ずらりと並んだ何種類かの戦闘機に驚きました。そして滑走路のなんと広いこと。これは艦船ではなく、“動く原子力基地”です。全長330メートルもあります。東京タワーを横に倒した大きさです。これがアジア・中欧地域まで支配していくかと思うと、ゾッとしました。（N）

【毎日新聞 9月26日】



米海軍横須賀基地に入港する米原子力空母「ジョージ・ワシントン」
＝神奈川県横須賀市で25日午前9時53分、本社ヘリから三浦博之撮影

原子力空母「ジョージ・ワシントン」

- ・ 進水 1990年7月
- ・ 排水量 9700トン
- ・ 全長 333¹/₂ 全幅 83¹/₂
- ・ 推進力 原子炉2基
- ・ 速度 30ノット超
- ・ 乗員 6000人 艦載機 80機
- ・ 燃料交換 50年就役期間中1回だけ